

稚内高校

令和 8 年度シラバス

商業科 3 年

目次

- | | | |
|----------|-------------|-----------------|
| 1. 現代文研究 | 9. 応用科学 | 17. ビジネス法規 |
| 2. 実用国語 | 10. 体育 | 18. 財務会計Ⅱ |
| 3. 古典研究 | 11. 生涯スポーツ | 19. ネットワーク管理 |
| 4. 歴史総合 | 12. 論理・表現Ⅰ | 20. プログラミング研究 |
| 5. 数学A | 13. 実用英語 | 21. 地域ビジネス |
| 6. 数学応用 | 14. 課題研究 | 22. 簿記研究 |
| 7. 実用数学 | 15. 総合実践 | 23. アプリケーションソフト |
| 8. 地学基礎 | 16. 商品開発と流通 | 24. ビジネス技術 |

教 科 科	国語	科目	現代文研究	年次	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	共通テスト対策【実力養成】重要問題演習現代文(マーク) プログレス〈読解・論点・探究〉現代文総演習・発展編								
科目の目標	評論文を読んで、構成、展開、要旨などを的確に理解し、論理的に思考することで国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	漢字や語句の意味を理解し、正しく使用できるようにする。			自分の考えを論理的にまとめたり、文章を正しく解釈して内容を把握したりすることができるようにする。			予習に取り組んだり復習を欠かさずに行ったりなど、意欲的に学び続ける態度を養う。		
評価の算出	授業内で実施する小テストや定期考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題などによって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への取り組み状況などによって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	評論「日本のデザイン」 評論「『本当の自分』の現象学」 小説「裸の王様」 評論「コミュニケーションという方法論」 評論「科学は今どうなっているのか」						小テスト 定期考査 授業内活動
	5	8	小説「犀鳥」 評論「『正義』」 随想「ひとり遊び」 評論「感性は感動しない」 評論「異文化理解」 小説「汚点」			○	◎	○	
	6	7 1	評論「歌よみの眼」 随想「わたしはなぜ旅に出るか」 前期中間考査			○	◎		
	7	5	評論「中世的世界とは何だろうか」 小説「風味絶佳」 随想「天地有情」 評論「ネーションとステートの間で」 評論「キャベツ人形の資本主義」						小テスト 定期考査 授業内活動
	8	4	評論「感覚の幽い風景」 評論「感想」 評論「科学・技術の歴史の中での社会」 評論「伝統と創造」 評論「植物はなぜ動かないのか」			○	◎	○	
	9	8 1	詩「ぼろぼろな駝鳥」 評論「近現代日本史と歴史学」 前期期末考査						
後 期	10	8	1「日本人にとって美しさとは何か」 2「観光とセルフ・オリエンタリズム」 3「ツーリズム・モビリティーズ」 11「越前海岸」 12「優しい音楽」 13「天使の見習い」			○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	11	8 1	4「再生可能エネルギーの導入に伴う『被害』と『利益』の社会的制御」 5「フォト・リテラシー」 6大澤真幸の文章Ⅰ・Ⅱ 14「苦瓜を語るにも……」 「言葉の入浴」 後期中間考査			○	◎		
	12	7	15「ある一行」「絶望と希望」 7「生命科学のユートピア」 8「情報とウェルビーイング」 9「都市計画における風景の思想」 10「ポスト・プライバシー」 16「葬式に行かぬ訳」			○	◎	○	
	1	5	様々な文章						
	2								
	3								
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
※ 大学入試において古典文と現代文が混在している文章を取り上げられていることもあるため、適宜、古典の文章（古文・漢文）を取り扱う可能性がある。 ● 授業の中で問題に取り組み、幅広い分野の作品に触れ、読解する。 ① 客観性に基づいた読解を経て、消去法をベースとした解答の訓練をする。 ② 解答解説をよく読んで、要旨の押さえ方や解き方を学ぶ。 ・ 進学を考えている生徒 共通テストと2次試験を見据えた対策を練る。解くことのみならず、なぜ間違えたのか、原因を究明し、次に取り組むことが重要。 ・ 就職を考えている生徒 問題が何を要求しているのか、正確に読み取る練習をする。基礎的な読解力・思考力・判断力を磨いていく。 ・ 進学就職に共通すること 読めない漢字やわからない語句を見つけたら、タブレット等を用いて必ず調べる。語彙力の向上は、自己推薦書や小論文などの準備になり、履歴書や面接の準備にもなり得る。『現代文単語』や『常用漢字アルファ』の熟読が求められる。									

教 科	国語	科目	実用国語	学年	2～3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	パスポート国語必携（桐原書店） 1日10分言語力ドリル「聞く・話す」「読む」（第一学習社）								
科目の目標	国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成する。 進んで表現することによって、国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。 言葉に関する知識を育み、言語感覚を磨く。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	漢字や語句の意味を理解し、正しく使用できるようにする。			自分の考えを論理的にまとめたり、文章を正しく解釈して内容を把握したりすることができるようにする。			予習に取り組んだり復習を欠かさずに行ったりなど、意欲的に学び続ける態度を養う。		
評価の算出	授業内で実施する小テストや定期考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題などによって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への取り組み状況などによって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	・オリエンテーション ※毎時間、漢字の基礎問題を取り組み、小テスト実施 ・原稿用紙の使い方 ・話し言葉と書き言葉			○		○	・プリント、課題 ・小テスト、考査 ・授業の取り組み・発言 上記を総合的に評価
	5	8	・敬語表現 ・尊敬語と謙譲語、実際の場面を想定した指導			○		○	
	6	7	・作文指導（高校生活で得たもの、自己アピール）				○	○	
	1		・前期中間考査			○	○		
	7	5	・履歴書の書き方 ・正しい文章と丁寧な文字			○		○	
			・手紙文の書き方 ・手紙のマナーと構成			○		○	
	8	4	・電話のかけ方とマナー【話すこと】			○		○	
後 期	9	9	・作文指導（志望理由、これからの心構え） ・面接について ・前期期末考査			○	○	○	・プリント、課題 ・小テスト、考査 ・授業の取り組み・発言 上記を総合的に評価
	10	8	・【聞く・話す】ドリル1～8			○	○	○	
			・【読む】ドリル1～8			○	○	○	
	11	9	・【聞く・話す】ドリル9～14			○	○	○	
			・【読む】ドリル9～14 ・後期中間考査			○	○	○	
	12	7	・【聞く・話す】ドリル15～18			○	○	○	
			・【読む】ドリル15～18			○	○	○	
	1	5	・国語常識の総まとめ			○	○	○	
	2								
	3								
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業と家庭学習の仕方について									
・『パスポート国語必携』に加え、各種課題プリントなどを取り組みます。また、漢字や一般常識、時事問題についての学習も行います。									
・わからない部分や気になることは、辞書や本、インターネットなどを活用して調べましょう。その情報を元に自分の意見を組み立て、意見文を書く取り組みを行います。									
・どの課題に対しても積極的に取り組む姿勢を身につけましょう。自己PRの材料を増やすことにつながります。									
・進路活動に深い関係を持つ内容を取り扱います。必ず修得し、進路活動に活かしましょう。									
・予習…次の時間で取り組む範囲の『パスポート国語必携』を読んでおきましょう。事前に指示します。									
・復習…効率よく修得するために、その日に行った授業内容は、その日のうちに確認しましょう。									

教 科		国語	科目	古典研究	年次	3	単位数	3	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		入試につながる古文・漢文 共通テスト対策実力養成重要問題演習古典								
科目の目標		古典としての古文と漢文を読む能力を高めていくとともに、古典を通じてものの見方、感じ方、考え方を磨き、古典を通じて、人生を豊かにする態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		古典に用いられている語句の意味や用法、および、文の構造を理解できるようにする。			古典の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができるようにする。			古典としての古文と漢文を読む能力を高め、古典を読み、味わう態度を養う。		
評価の算出		授業内で実施する小テストや定期考査などによって算出する。			定期考査や授業内で行う課題などによって算出する。			授業内で実施する小テストや課題への取り組み状況などによって算出する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	11	【古文】十訓抄、発心集、古今著聞集、今昔物語集、徒然草、枕草子							小テスト 定期考査 授業内活動
	5	11	【漢文】唐宋八大家文読本、列子、世説新語、約言				○	◎	○	
	6	10 1	【古文】玉勝間、更級日記、和泉式部日記、讀岐典侍日記 前期中間考査				○	◎		
	7	11	【古文】古文真宝後集、戦国策、説苑、池北偶談、蜻蛉日記、毎月抄							小テスト 定期考査 授業内活動
	8	8	【古文】俊頼随脳、去来抄				○	◎	○	
	9	10 1	【漢文】史記、貞観政要、孟子、漢書 前期期末考査							
後 期	10	14	【古文】平家物語、栄華物語、大鏡、伊勢物語、大和物語				○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	11	10 1	【漢文】韓非子、墨子、漢書、国語 後期中間考査				○	◎		
	12	11	【古文】堤中納言物語、落窪物語、源氏物語、住吉物語				○	◎	○	小テスト 定期考査 授業内活動
	1	6	【漢文】呂氏春秋、史記、管子、資治通鑑							
	2									
	3									
合計		105								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
※ 大学入試において古典文と現代文が混在している文章を取り上げられていることもあるため、適宜、現代の文章（評論・小説）を取り扱う。 ● 授業の中で問題に取り組み、幅広い分野の作品に触れ、読解する。 ① 客観性に基づいた読解を経て、消去法をベースとした解答の訓練をする。 ② 解答解説をよく読んで、要旨の押さえ方や解き方を学ぶ。 ● 単語や文法などの知識的事項は、絶えず確認していく。 ・ 「現代と意味が異なる単語」「現代にはない単語」を重点的に古文単語を習得する。 ・ 「現代と意味が異なる漢文漢字」「現代では用いられていない漢文漢字」を重点的に修得する。 ・ 意味が複数ある助動詞や単語は、その訳し分けの方法を重点的に把握する。										

教 科		地理歴史 科目		歴史総合		学年		3		単位数		2		必修		
使用教科書		明解 歴史総合（帝国書院）														
使用副教材		明解 歴史総合ノート（帝国書院）														
科目の目標		近現代を中心とする歴史の変化を、諸資料に基づき、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、社会的現象の歴史的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。														
評価の観点		① 知識・技能					② 思考・判断・表現					③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		・近現代の歴史の変化を、日本とその背景にある世界との相互的な関係に気づき、理解できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる疑問の解決に向けて、歴史的資料を適切かつ効果的に利用できたか。					・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、歴史的な概念に基づき考察できたか。 ・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味、原因、意義を、自らの言葉で表現できたか。					・自らの経験や思考に基づき、近現代の歴史の変化に関わる疑問を立てることができたか。				
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・定期考査 ・課題の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・提出物 ・授業の取り組み 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容								①	②	③			
前 期	4	1	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料								○	◎	○	課題の取り組み		
		1	2部 近代化と私たち 序章								○	○	◎	授業の取り組み		
		4	1章 江戸時代の日本と結びつく世界 1/2/3/4								◎	○	○	定期考査		
		1	2章 欧米諸国における近代化 1								◎	○	○	定期考査		
	5	4	2章 欧米諸国における近代化 2/3/4/5								◎	○	○	定期考査		
		4	3章 近代化の進展と国民国家形成 1/2/3/4								◎	○	○	定期考査		
	6	1	前期中間考査								◎	◎	○			
		5	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 1/2/3/4/5								◎	○	○	定期考査		
		2	5章 近代化が進む日本と東アジア 1/2								◎	○	○	定期考査		
	7	3	5章 近代化が進む日本と東アジア 3/4/5								◎	○	○	定期考査		
		1	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章								○	○	◎	授業の取り組み		
	8	1	1章 第一次世界大戦と日本の対応 1								◎	○	○	定期考査		
		3	1章 第一次世界大戦と日本の対応 2/3								◎	○	○	定期考査		
	9	2	2章 国際協調と大衆社会の広がり 1								◎	○	○	定期考査		
3		2章 国際協調と大衆社会の広がり 2/3								◎	○	○	定期考査			
1		前期期末考査								◎	◎	○				
後 期	10	8	3章 日本の行方と第二次世界大戦 1/2/3/4/5/6/7								◎	○	○	定期考査		
		11	4章 再出発する世界と日本 1/2/3/4								◎	○	○	定期考査		
		1	4部 グローバル化と私たち 序章								○	○	◎	授業の取り組み		
		3	1章 冷戦で揺れる世界と日本 1/2/3								◎	○	○	定期考査		
	12	1	1章 冷戦で揺れる世界と日本 4								◎	○	○	定期考査		
		4	2章 多極化する世界 1/2/3/4								◎	○	○	定期考査		
	1	後期中間考査								◎	◎	○				
	1	1	3章 グローバル化の中の世界と日本 1								◎	◎	○	課題の取り組み		
		5	3章 グローバル化の中の世界と日本 2/3/4/5								◎	◎	○	課題の取り組み		
		2 3														
合計		70														
学 習 方 法 ・ そ の 他																
＜持ち物＞ ・教科書 ・授業プリント（授業プリントをまとめるためのファイルを準備してください） ・筆記用具（なるべくカラフルに） ＜その他＞ ・次の3つの疑問文を大切にしてください。授業者も常に意識しながら説明をしていきます。 ①「どうということか・何か」 ②「なぜか」 ③「どうなったか」																

教 科	数 学	科 目	数学A（商業科）	年 次	3	単 位 数	2	必修
使用教科書	新編 数学A （第一学習社） 新編 数学A サポートブック（第一学習社）							
使用副教材	スタディ 数学A （第一学習社）							
科目の目標	授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。	
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	
前 期	4	6	第1章 場合の数	集合／集合の要素の個数／数え上げの原則	◎	○	◎	取り組み
				順列／重複順列	◎	○	◎	取り組み
	5	6		円順列／組合せ／組合せの利用	○	◎	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査		◎	◎	◎	定期考査、提出物
			第2章 確率	事象と確率／確率の基本的な性質				
	7	4		余事象の確率	◎	○	◎	取り組み
				独立な試行の確率／反復試行の確率	○	◎	◎	取り組み
	8	4	前期期末考査		◎	◎	◎	定期考査、提出物
				条件つき確率／期待値	○	◎	◎	取り組み
後 期	9	8	第3章 図形の性質	三角形と比／三角形の重心、外心、内心	◎	○	◎	取り組み
				チェバの定理・メネラウスの定理	◎	○	◎	取り組み
	10	8		円周角の定理、円に内接する四角形	◎	○	◎	取り組み
				円と接線／方べきの定理／2つの円	○	◎	◎	取り組み
	11	8		空間における直線／平面の位置関係	○	◎	◎	取り組み
	12	6	後期中間考査		◎	◎	◎	定期考査、提出物
			第4章 数学と人間の活動	約数・倍数／余りによる自然数の分類	◎	○	◎	取り組み
	1	4		ユークリッドの互除法／2進法	◎	○	◎	取り組み
2	4							
3	4							
合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができたら問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。								

教 科		数学	科目	数学応用	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		4プロセス 数学Ⅰ＋A （数研出版）								
科目の目標		数学Aで学習した基礎的な概念や原理・法則を活かして、より高度な問題、生活を相互に関連付けた発展的なテーマや課題について、主体的に解決できる態度を育てるとともに、計算技能や問題解決能力の向上を図る。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、取り組み方や提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	集合の要素の個数／場合の数				◎	○	◎	取り組み
	5	8	順列／組合せ／事象と確率／確率の基本性質				◎	○	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	7	5	独立な試行と確率／条件付き確率／期待値				○	◎	◎	取り組み
			三角形の辺の比／三角形の外心・内心・重心				◎	○	◎	取り組み
	8	5	チェバの定理・メネラウスの定理				○	◎	◎	取り組み
	9	8	円に内接する四角形				◎	○	◎	取り組み
前期期末考査				◎	◎	○	定期考査、提出物			
円と直線／2つの円／直線と平面				◎	○	◎	取り組み			
後 期	10	8	空間図形と多面体				○	◎	◎	取り組み
	11	9	約数と倍数／素数と因数分解				◎	○	◎	取り組み
	12	7	最大公約数・最小公倍数／整数の割り算				◎	○	◎	取り組み
			後期中間考査				◎	◎	○	定期考査、提出物
	1	5	ユークリッドの互除法／1次不定方程式				◎	○	◎	取り組み
			記数法／座標の考え方				◎	○	◎	取り組み
2	0									
3	0									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもらう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。										

教 科	数学	科目	実用数学	年次	3	単位数	2	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	テスト式就職 数学Ⅰ・A（浜島書店） SPI3をひとつひとつわかりやすく。（Gakken）								
科目の目標	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則について理解を深め、実践的な数学を用いた就職試験を見据えた基礎的な能力を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。			問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。			授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出	上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。			上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	四則の混じった計算／公倍数と公約数			◎	○	◎	取り組み
			分数の計算／小数と分数の関係			◎	○	◎	取り組み
	5	8	割合の単位／比の計算／つるかめ計算			○	◎	◎	取り組み
	6	8	前期中間考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
			年齢算／損益計算			◎	○	◎	取り組み
	7	5	速さ			○	◎	◎	取り組み
	8	5	濃さ			○	◎	◎	取り組み
後 期	9	8	前期期末考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
			仕事算／場合の数			◎	○	◎	取り組み
	10	8	確率／集合			○	◎	◎	取り組み
	11	9	推論			○	◎	◎	取り組み
	12	7	後期中間考査			◎	◎	○	定期考査、提出物
			グラフの読み取り／n進法			◎	○	◎	取り組み
	1	5	総合演習			◎	◎	◎	取り組み
2	0								
3	0								
合計		70							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができたら問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。									

教 科			理科	科目	地学基礎	学年	3	単位数	3	選択		
使用教科書			改訂版 高等学校地学基礎（数研出版）									
使用副教材			改訂 ネオパールノート地学基礎（第一学習社）									
科目の目標			地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。									
評価の観点			① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨			日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。			地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報収集、実験による検証を行い、科学的に探究している。			地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、それらに対する気づきから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとしている。			
評価の算出			小テスト・レポート課題・定期考査			小テスト・レポート課題・定期考査			授業参加・提出課題・小テスト			
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③	
前 期	4	1	○オリエンテーション						◎	○	◎	小テスト・レポート課題
		10	○地球のすがた									
	5	6	・地球の外観・プレートの運動						◎	○	◎	小テスト・レポート課題
			○地球の活動									
		5	・地震						◎	◎	○	小テスト
	6	1	《前期中間考査》						◎	◎		定期考査
	6	10	・火山活動						◎	○	◎	レポート課題・授業参加
		○大気と海洋										
	7	11	・地球のエネルギー収支						◎	◎	○	小テスト
後 期	8	8	・大気と海水の運動						◎	◎	○	レポート課題
	9	1	《前期期末考査》						◎	◎		定期考査
		○宇宙と地球										
	10	・宇宙と太陽の誕生						◎	○	○	小テスト	
後 期	10	14	・太陽系と地球の誕生						◎	○	○	小テスト
		○地層と化石										
	11	10	・地球と生物の変遷						◎	◎	◎	課題レポート・授業参加
		1	《後期中間考査》						◎	◎		定期考査
	12	11	・地層と化石						◎	○	○	小テスト
期		○地球の環境										
	1	6	・地球環境の科学・日本の自然環境						○	○	◎	課題レポート・授業参加
合計		105										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
◎授業の受け方 ・毎回必ず、教科書・ノートを持参してください。 ・なぜ？どうして？という疑問を持ち、授業を通してその疑問を解決していきましょう。 ・わからないことはどんどん質問してください。 ◎家庭学習の仕方 ・問題演習を中心に知識を定着させましょう。特に記述問題は解答を見ずに、一度はチャレンジしましょう。 ・一つ一つの語句の意味を自身で説明できるようになるまで、繰り返し確認しましょう。 わたしたちの生活には様々な地球活動が関わっています。その奥深さに触れていきましょう！												

教 科		理科	科目	応用科学	学年	3	単位数	2	選 択		
使用教科書		なし									
使用副教材		なし									
科目の目標		(1) 科学的な現象について、基礎的な内容を学習し、基本的な概念や原理・法則を理解する。 (2) 科学的な見方や考え方を身に付ける。 (3) 実験や観察を行い、その結果に対して論理的に考える力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能を身に付けている。			多角的、複合的に事象を捉え、科学に関する課題を設定して探究し、課題を解決する力を養うとともに創造的な力を高めている。			様々な事象や課題に向き合い、粘り強く考え行動し、課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度、探究の過程を振り返って評価・改善しようとする態度及び倫理的な態度を身に付けている。			
評価の算出		授業への取り組み・課題・実験レポート			授業への取り組み・課題・単元レポート・実験レポート・発表の様子			授業への取り組み・課題・単元レポート・実験レポート・発表の様子			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	7	探究の進め方についての基礎学習 ●物理、化学、生物、地学の基礎知識を理解する。				◎	○	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	5	8	基本的な観察・実験の方法についての基礎学習 ●物理、化学、生物、地学の基礎知識を理解する。				◎	○	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	6	8	特定の自然の事物・現象に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	7	5	特定の自然の事物・現象に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	8	5	先端科学や学際的領域に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	9	8	先端科学や学際的領域に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
後 期	10	8	自然環境の調査に基づく研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	11	9	自然環境の調査に基づく研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	12	7	科学を発展させた実験に関する研究 ●課題の発見と追究				◎	◎	○	授業への取り組み・課題・実験レポート	
	1	5	科学を発展させた実験に関する研究 ●課題の解決				○	◎	○	授業への取り組み・実験レポート・発表	
	2										
	3										
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
【授業の受け方、学び方】 自ら設定した研究テーマに関する実験が主となります。未知のことを調べるために、どのような実験をすれば良いのか。実験の方法そのものを考えることから始め、実際に実験や観察を行い、実験結果が本当に正しいのかどうかを見極め、成果を発表する。ここまで到達するために、自分が今何をしなければならないのかを常に考えてください。 研究テーマの設定時や、実際に実験を進めていく過程で、なぜ、どうして？と疑問が出てくると思います。その疑問を解決し、説明できるようにすることが重要です。少しずつ科学の世界の面白さや、奥深さに触れていきましょう！											

教 科	保健体育	科目	体育	学年	3	単位数	2	必修
使用教科書	なし							
使用副教材	なし							
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質と能力を育てる。							
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。		グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組む、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出	A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。		A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	③
前 期	4	1	オリエンテーション【1】			○	○	○
	5	1	体育理論【1】：①スポーツにおける技能と体力			○	○	○
		2	集団行動【2】			○	○	○
		9	新体カテスト【4】体づくり運動【5】：体ほぐし運動・縄跳び			○	○	○
	6	3	陸上競技：長距離走【3】			○	○	○
		8	選択Ⅰ【8】（球技種目①選択） バレーボール、ソフトボール			○	○	○
	7	11	カーリング授業【11】			○	○	○
	8							
	9	8	選択Ⅱ【8】（球技種目②選択） サッカー、バスケットボール			○	○	○
後 期	10	14	選択Ⅲ【14】（球技種目③選択） バドミントン、卓球			○	○	○
	11	2	体育理論【2】：②ライフスタイルに応じたスポーツ ③スポーツを推進する取り組み			○	○	○
	12	8	選択Ⅳ【8】 ニュースポーツ （種目：インディアカ、ソフトバレー、シュックボール、ユニバーサルホッケー、アルティメット）			○	○	○
	1	3	体育理論【3】：④スポーツライフの設計 ⑤諸外国のスポーツを推進する取り組み ⑥豊かなスポーツライフの創造			○	○	○
	2							
	3							
	合計	70						
学 習 方 法 ・ そ の 他								
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった!、できた!」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることが大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（バーバーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。								

教 科	保健体育	科目	生涯スポーツ	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書	なし									
使用副教材	なし									
科目の目標	授業の計画・実践や、ニュースポーツの実践等を通じて主体的にスポーツ活動に親しみ、自他の豊かなスポーツライフの実現に寄与する資質や能力を育てる。									
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	・運動の特性や魅力について学ぶとともに、実践を通して知識・技能を高めようとしている。			・仲間の意見を尊重し、課題の解決に向けた建設的な提案ができる。 ・学習内容や話し合い活動等の内容を適切に資料にまとめることができる。			・運動に主体的に取り組み、自己の役割を見つけその責任を果たそうとしている。			
評価の算出	A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上にに取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。			
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点				
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	③		
前 期	4	7	オリエンテーション、指導法の理解、授業計画作成方法の理解			○	○	○		
		2	教員の模擬授業（ゴール型）			○	○	○		
		5	7	授業計画の作成と発表会と相互評価①（ゴール型）			○	○	○	
	6	7	授業計画の作成と発表会と相互評価②（ゴール型）			○	○	○		
		7	2	教員の模擬授業（ネット型）			○	○	○	
			7	授業計画の作成と発表会と相互評価①（ネット型）			○	○	○	
			8	7	授業計画の作成と発表会と相互評価②（ネット型）			○	○	○
		9								
後 期	10	6	教員の模擬授業（ニュースポーツ）			○	○	○		
		10	授業計画の作成と発表会と相互評価（ニュースポーツ）			○	○	○		
	11	5	創作スポーツの準備			○	○	○		
		12	5	授業計画の作成と発表会と相互評価（創作スポーツ）			○	○	○	
	1	5	まとめ（これまでのスポーツの振り返り）				○	○		
		2								
		3								
	合計	70								
	学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用します。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・運動への関わり方を理解し、主体的に運動に関わることができるように授業を展開します。 ・グループ・チームで目標・計画を設定して活動を展開します。教え合い・学び合いを意識して行動しましょう。 ◎提出物について ・展開に応じて「相互評価シート」や「振り返りシート」をTeamsの課題として共有・提示します。コピー及びペーストをすることなく提出期限を守ることを大切にして下さい。「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内でペーパーテストを実施する可能性があります。										

教 科		外国語	科目	論理表現Ⅰ	学年	3	単位数	2	必修		
使用教科書		Revised APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅠ									
使用副教材		Rivised APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅠ Workbook e-Learning(ⅠCT教材)									
科目の目標		Can-Doリストに基づく。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めようとしている。 ・実際に英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけようとしている。			・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成しようとしている。 ・言語の使用場面や言語の働きの中からふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用しようとしている。			・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			
評価の算出		・定期考査 ・授業内テスト			・定期考査 ・パフォーマンステスト（内容） ・課題（内容）			・パフォーマンステスト（態度） ・課題（提出状況） ・振り返り/授業への取り組み			
年 間 の 学 習 計 画								評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容					①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション								課題、小テスト、授業への取り組み
		5	Lesson1					◎	○	◎	
	4	4	Lesson2					◎	○	◎	課題、小テスト、授業への取り組み
		4	Lesson3					◎	○	◎	
	8	2	前期中間考査					◎	◎		考査
		4	Lesson4					◎	○	◎	
		4	Leeson5					◎	○	◎	
		4	Lesson6								
		3	パフォーマンステスト①					○	◎	◎	
		2	前期期末考査					◎	◎		
後 期	10	4	Lesson8					◎	○	◎	課題、小テスト、授業への取り組み
		4	Lesson9					◎	○	◎	
	11	2	後期中間考査					◎	◎		考査
		4	Lesson10					◎	○	◎	
	12	3	パフォーマンステスト②					○	◎	◎	パフォーマンステスト
		4	Lesson11					◎	○	◎	
	1	4	Lesson12					◎	○	◎	課題、小テスト、授業への取り組み
		4	Lesson13					◎	○	◎	
	2	4	Lesson14					◎	○	◎	課題、小テスト、授業への取り組み
		4	Lesson15					◎	○	◎	
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・教科書、2穴ノート（A4版）、タブレットを毎時間準備してください。											
・先生の話聞きメモを取ったりするだけでなく、生徒同士で意見を交わしたりする場面が多くあります。											
・英語技能の中の5つの領域（R：読むこと、L：聴くこと、W：書くこと、SI：対話や会話、SP：発表）を総合的に伸ばすことを目指します。											
積極的に英語を使う場面を楽しみながら学習しましょう。											

教 科		外国語	科目	実用英語	年次	3	単位数	3	選択			
使用教科書		CAMBRIDGE “READ THIS!2”										
使用副教材		なし										
科目の目標		Can-Doリストに基づく										
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		・ Readingに必要な語彙、文法知識、Writing Skillが身についている。 ・ 英語のリズム、発音について理解し、正しく発話している。			・ 与えられた情報をもとに、自分の考えについて他者と一定時間やりとりができる。 ・ 読み取った情報を、自分の言葉で端的に要約・再構成して伝えることができる。			・ 英語で発信するために必要な知識、技能を身につけようとしている。 ・ 自分の考えや気持ちを他者に論理的に述べようとしている。				
評価の算出		単語テスト(20%) 定期考査(30%)			各小テスト(10%) ※スピーキング、英作文を含む定期考査(20%)			活動の様子(10%) パフォーマンステスト(話すこと)(10%)				
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③		
前 期	4	1	オリエンテーション						○	単語テスト		
		4	Chapter1 “The World’s Best-Selling Medicine”				○					
		5	4	Chapter2 “First Write…It Helps!”				○				単語テスト
			4	Chapter3 “Student Government”				○				単語テスト
	6	4	Unit1 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文		
		1	前期中間考査				○	○		考査		
		7	5	Chapter4 “Dolphins to the Rescue”				○			単語テスト	
			5	Chapter5 “The Gentle Giant from Africa”				○			単語テスト	
	8	5	Chapter6 “Animal Detectives”				○			単語テスト		
		4	Unit2 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文		
9	5	Chapter7 “How the Kiwi Got Its Name”				○			単語テスト			
	1	前期期末考査				○	○		考査			
	後 期	10	6	Chapter8 “The Fifth Taste”				○			単語テスト	
6			Chapter9 “Eat Less, Live Longer?”				○			単語テスト		
4			Unit3 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文		
11			6	Chapter10 “Teenage Con Man”				○			単語テスト	
		6	Chapter11 “Fingerprints Don’t Lie- Or Do They?”				○			単語テスト		
		6	Chapter12 “I Then…”				○			単語テスト		
		1	後期中間考査				○	○		考査		
12		4	Unit4 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文		
		6	Chapter13 “Death by Internet”				○			単語テスト		
		1	6	Chapter14 “The Power of the Mind”				○			単語テスト	
	6		Chapter15 “Miracle on the Hudson”				○			単語テスト		
2・3	5	Unit5 WRAP-UP(リテリング活動+エッセイライティング)					○	○	スピーキング、英作文			
合計		105										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
- 教科書、筆記用具、タブレットを毎回の授業時に持参してください。 - 教科書の内容はすべて英語で記載されています。授業外で日本語に訳すなど予習を十分に行ったうえで臨んでください。 - スペースの都合上、各チャプターの時数を多めに設定しています。つきましては、予定よりも早くチャプターが進行する可能性があります。												

教 科	商業	科目	課題研究	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	高度な資格取得に関する授業に取り組み、知識を高めることができたか。			授業で学習した内容をプリント等で確認し、資格取得を実現できたか。各種行事を考え、企画・実行したか。			各種行事に主体的に参画しているか 検定試験取得に向け、自ら考え計画的に行っているか。		
評価の算出	検定試験・日々の取り組み			検定試験・日々の取り組み			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	7	ガイダンス 資格取得に向けた学習			○	○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 検定試験 検定試験 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物
	5	8	資格取得に向けた学習			○	○	○	
	6	8	全商ビジネス文書実務検定試験 全商ビジネス計算検定試験試験			○	○		
	7	5	地域発展学習				○	○	
	8	5	地域発展学習				○	○	
	9	8	地域発展学習				○	○	
後 期	10	8	資格取得に向けた学習			○	○	○	日々の取り組み・成果物 検定試験 検定試験 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 成果物
	11	9	ビジネス文書実務検定試験 ビジネス計算検定試験試験			○	○		
	12	7	金融学習（年金セミナー） 外部講師招聘事業 礼法学習（ビジネスマナー講座） 外部講師招聘事業			○	○	○	
	1	5	商業科授業成果報告会に向けた学習			○	○	○	
	2								
	3								
合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・ この授業は、外部講師を招聘した講演も予定している。 ・ 高度な資格取得に向けて、自ら計画し、自ら学習する姿勢を大切に授業に取り組むこと。 ・ 週2時間の授業のため、とりわけ欠席をしないよう注意する。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに成績にも関わるので十分注意する。									

教 科		商業	科目	総合実践	学年	2・3	単位数	2	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		総合実践 企業取引を学ぶ 三訂版(実教出版) 令和8年度版 全商ビジネスコミュニケーション検定テキスト(実教出版)								
科目の目標		商業の各分野に関する知識と技術を実践的活動を通して総合的に習得させ、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行う能力と態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		定期考査、提出物で知識や理解を確認する。			3年間商業科の授業で学習した内容を、模擬取引等で確認・実行する。			与えられた課題に対し、どのように取り組み・対応するかが表現できる。		
評価の算出		定期考査・提出物			定期考査・提出物			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	ガイダンス 総合実践の学習 礼法・挨拶指導					○	○	日々の取り組み
	5	8	対応の仕方 検定対策				○	○	○	日々の取り組み・成果物
	6	8	全商ビジネスコミュニケーション検定試験 前期中間考査				○	○		検定試験 定期考査
	7	5	模擬取引 開業業務 開業仕訳、期首貸借対照表の作成、各種契約書の作成				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	8	5	模擬取引 売買業務(1) 仕入・売上業務および会計処理				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	9	8	模擬取引 売買業務(2) 仕入・売上業務および会計処理				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	10	8	模擬取引 月末業務 合計残高試算表の作成				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	11	9	模擬取引 月末業務 合計残高試算表の作成				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	12	7	模擬取引 決算報告 総勘定元帳等の締切				○	○	○	日々の取り組み・提出物
後 期	1	5	模擬取引 決算報告 各種財務諸表の作成				○	○	○	日々の取り組み・提出物
	2									
	3									
	合計	70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・商業科目の集大成的授業であり、その意義を理解して授業に臨むこと。 ・週2時間の授業のため、進度早いことから、極力欠席をしない。 ・会社の模擬取引を行う内容のため、欠席をすると取引相手の作業を滞らせることになるので注意すること。 ・授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・必要物品が多いため、忘れ物や紛失にはとりわけ注意すること。										

教 科		商業	科目	商品開発と流通	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書		商品開発と流通（実教出版）									
使用副教材		商品開発と流通 問題集（実教出版） 令和8年度版全国商業高等学校協会主催全商商業経済検定試験模擬試験問題集商品開発と流通1・2級(実教出版)									
科目の目標		商品開発に関する知識と技術を習得し、顧客満足を実現することの重要性について理解するとともに商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		体系的・系統的に理解し、商品開発に関する知識と流通における商品に関する知識がある。			商品開発に関する諸活動への適切な課題を発見し、その解決方法を深めているか。			商品開発に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。 組織の一員として自己の役割を認識し、諸活動にあたっているか。			
評価の算出		定期考査・検定試験 日々の取り組み			定期考査・検定試験 日々の取り組み			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	7	ガイダンス							日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査	
	5	8	1章 商品開発と流通の概要				○		○		
	6	8	2章 商品の企画 前期中間考査				○	○	○		
	7	5	商品の企画				○	○	○		
	8	5	3章 事業計画の立案					○	○		
	9	8	3章 事業計画の立案 前期期末考査				○	○	○		
後 期	10	8	実習 事業計画書の立案					○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 検定試験	
	11	9	4章 商品の開発 後期中間考査				○	○	○		
	12	7	5章 商品の販売				○	○	○		
	1	5	6章 商品開発と流通に関わる新たな展開 商業科授業成果報告会に向けて 検定対策				○	○	○		
	2		全商商業経済検定試験				○	○			
	3										
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・ 商業科目の中でも実践的科目であることを意識して取り組む。 ・ 年度末に予定している商品開発実習において、年間の学習内容すべてを発揮して取り組むこととなる。 ・ 卒業後においても非常に有用な科目であることから、それを意識して積極的に取り組むこと。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出すること。 ・ 本授業を通じて、全商商業経済検定試験（商品開発と流通）取得を一目標とする。											

教 科		商業	科目	ビジネス法規	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書		新訂版 ビジネス法規（東京法令出版）									
使用副教材		商業741 ビジネス法規 ワークブック(東京法令出版) 令和8年度版 全商商業経済検定試験問題集 1・2級ビジネス法規（実教出版）									
科目の目標		ビジネスにおける必要な法規に関する基礎的・基本的知識を習得させる。 経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法律的に考え、判断する能力と態度を育てる。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち、意欲的に学習しているか。			条文等の生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえているか。			現実の事象が、法社会の中でどのように扱われているかをとらえているか。 至る所に法があることを、知識の裏付けを持って実感し、理解できたか。			
評価の算出		定期考査・検定試験 章末テスト・日々の取り組み			定期考査・検定試験 章末テスト・日々の取り組み			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③		
前 期	4	7	ガイダンス 第1章 法の概要 ・ビジネスにおける法の役割・法の体系と解釈 ・権利義務と財産権				○	○	○	日々の取り組み・成果物	
	5	8	第2章 企業活動と法規 ・契約・企業活動における契約・株式会社の特徴と機関 ・資金調達と金融取引・組織再編と精算、再建・競争秩序の確保				○	○	○		
	6	8	第3章 税と法規 ・税の種類と法人の納税義務 前期中間考査				○	○	○		日々の取り組み・成果物
	7	5	第3章 税と法規 ・法人税の納付と申告				○	○	○		定期的考査
	8	5	第3章 税と法規 ・消費税の申告と納付				○	○	○		日々の取り組み・成果物
	9	8	前期期末考査				○	○	○		定期的考査
	後 期	10	8	第4章 企業責任と法規 ・法令遵守・労働者の保護・消費者の保護				○	○		○
11		9	第4章 企業責任と法規 ・情報の保護・紛争の予防と解決 後期中間考査				○	○	○	定期的考査	
12		7	第5章 経済環境の変化と法 ・経済環境の変化と法				○	○	○	日々の取り組み・成果物	
1		5	全商商業経済検定対策				○	○	○	検定試験	
2			全商商業経済検定試験				○	○	○		
3							○	○	○		
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・ 1年次に学習した「ビジネス基礎」の発展科目である。 ・ 本授業を通じて、全商商業経済検定試験（ビジネス法規）取得を一目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意すること。 ・ 今後社会生活を送る上で非常に有益な学習内容であることから、主体的に授業に取り組むこと。											

教 科		商業	科目	財務会計Ⅱ	学年	3	単位数	3	選択		
使用教科書		財務会計Ⅱ（実教出版）									
使用副教材		反復式 学習と検定 会計問題集 全商1級 会計 改訂版(実教出版) 令和8年度版 全国商業高等学校協会主催 全商簿記実務検定 模擬試験問題集 1級 会計（実教出版）									
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を身に付ける。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		新会計基準や財務会計の基本概念について自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけている。			財務会計および監査の理論と技術習得を目指し意欲的に取り組むとともに、会計情報を提供し、活用しようとする態度を身につけている。			新会計基準に関する会計処理技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に提供・活用することができる。			
評価の算出		章末テスト 検定試験 定期考査			章末テスト 検定試験 定期考査			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	11	ガイダンス 第1編 財務会計の基本概念と会計基準 ・財務会計の基本概念 ・会計基準の国際的統合 ・資産負債アプローチと収益費用アプローチ				◎	○	○	日々の取り組み・成果物	
	5	11	第2編 財務会計の実践 ・資産会計 ・負債会計 ・純資産会計 ・リース会計 ・税効果会計				◎	◎	○		
	6	11	前期中間考査				◎	◎	◎		定期考査
	7	11	第3編 企業活動の展開と財務会計 ・外貨換算会計 ・キャッシュフロー計算書 ・わが国の会計基準の特徴と国際会計基準への対応 ・自己株式、貸借対照表の作成				◎	◎	○		日々の取り組み・成果物
	8	8	第4編 企業結合の会計 ・企業結合会計 ・連結財務諸表の作成(その1) ・連結財務諸表の作成(その2)				◎	◎	○		日々の取り組み・成果物
	9	11	前期期末考査				◎	◎	◎		定期考査
後 期	10	14	第5編 財務諸表の活用 ・財務諸表の活用				◎	◎	○	日々の取り組み・成果物	
	11	11	後期中間考査				◎	◎	○	日々の取り組み・成果物	
	12	11	第6編 監査と職業人会計 ・監査と職業会計人 検定対策				◎	○	○	日々の取り組み・成果物	
	1	6	検定対策				◎	◎	◎	日々の取り組み・成果物	
	2		全商簿記実務検定試験				◎	◎	◎	検定試験	
	3		日商簿記検定				◎	◎	◎	検定試験	
合計		105									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・ 会計学習の集大成的な科目であり、簿記等これまでの会計学習で学んだことをいかに活用していくのかを学びます。 ・ これまでの会計学習の復習と理解が絶対不可欠です。過去の学習内容をもう一度確認の上授業に臨んでください。 ・ 全商簿記実務検定1級以上の取得を目指します。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。											

教 科		商業		科目	ネットワーク管理	学年	2・3		単位数	3		選択		
使用教科書		ネットワーク管理 （実教出版）												
使用副教材		学習と検定 EXCELで学ぶ全商情報処理テキスト 1級ビジネス情報部門 三訂版(実教出版) 全商 情報処理検定試験模擬試験問題集 1級ビジネス情報部門 2026(東京法令出版)												
科目の目標		企業内の情報通信ネットワークを構築して円滑に運用する知識と技術を習得するとともに、ビジネスの諸活動において情報を管理し、共有することの意義や必要性について理解させる。												
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		情報資産を実務に即して体系的・系統的に理解し、技術を身に付ける。				情報資産に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて解決しようとする。				情報資産を共有・保護する環境の提供に、主体的・協働的に取り組もうとしている。				
評価の算出		定期考査・検定試験 日々の取り組み				定期考査・検定試験 日々の取り組み				日々の取り組み				
年 間 の 学 習 計 画										評価の重点			評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容							①	②	③		
前 期	4	11	ガイダンス 1章 企業活動と情報通信ネットワーク							○	○	○	日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査 日々の取り組み・成果物 検定試験 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 日々の取り組み・成果物 定期考査	
	5	11	2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理							○	○	○		
	6	11	2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 前期中間考査 全商ビジネス文書実務検定対策							○	○	○		
	7	11	全商ビジネス文書実務検定試験 2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理							○	○	○		
	8	8	2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理							○	○	○		
	9	11	2章 情報通信ネットワークの設計・構築と運用管理 前期期末考査							○	○	○		
	後 期	10	14	3章 情報セキュリティ							○	○		○
		11	11	3章 情報セキュリティ 後期中間考査 全商情報処理検定試験対策							○	○		○
12		11	3章 情報セキュリティ 全商情報処理検定試験対策							○	○	○		
1		6	3章 情報セキュリティ 全商情報処理検定試験							○	○	○		
2														
3														
合計		105												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
・ 普段の授業を大切に。予習、復習をこまめにする。 ・ 本授業では、全商情報処理検定 1 級ビジネス情報部門の取得を目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ パソコンその他情報機器の破損等の無いよう取り扱いに十分留意すること。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに成績にも関わるので十分注意する。														

教 科		商業	科目	プログラミング研究	学年	3	単位数	2	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		なし									
科目の目標		2年次に履修した「プログラミング」に関する知識・技術を基に、応用的な知識・技術や作品制作を通してより実践的なプログラミング能力を養う。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		プログラミングに関するより高度な技能を身につけようとしているか。			自分が設定したテーマについてプログラムをどのように作成すればよいか理解しているか。 アルゴリズムやJavaに関する構文を理解しているか。			自分が設定したテーマに関するプログラムが作成できているか。			
評価の算出		定期考查 成果物			定期考查 成果物			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	7	○Javaの復習 →全商情報処理検定2級程度の内容について復習する。				◎	◎	○	日々の取り組み・成果物	
	5	8	○Javaの活用 ・フレームの作成				◎	◎	○		
	6	8	・コンポートとコンテナ ・イベント処理 ・さまざまなコンポーネントの利用 ・文字列処理				◎	◎	○		
	7	5	・画像の処理				◎	◎	○		
			・図形の処理と描画（線の描画、四角形の描画） ・音声の処理				◎	◎	○		
	8	5	○ 作品制作 ・どのような内容のプログラムを作成するか計画を立て、企画書を作成する。				○	◎	◎		
	9	8	・作成した企画書を基に流れ図を作成し、どのようにプログラムを設計するか計画する。 ○前期期末考查				○	◎	◎		
	後 期	10	8	・プログラムの入力作業を行う。				○	◎		◎
		11	9	・プログラムに誤りがないかどうか確認し、修正作業を行っていく。				○	◎		◎
12		7	・完成したプログラムについて発表できるよう、資料を作成する。				○	◎	◎		
1		5	○ 作品発表会 ・作成したプログラムについて発表し、相互評価を実施する。				○	◎	◎		
2 3											
合計		70									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・実習が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・授業への取り組み状況や作品の完成度合いも重要な評価対象とする。 ・学校外で行う授業であるため、機材の取扱にはよりいっそうの注意を図ること。											

教 科		商業	科目	地域ビジネス	学年	3	単位数	2	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		地域のビジネスに関する知識と技術を習得させ、地域社会の一員としての意識や在り方について理解させるとともに、地域に貢献するビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う能力と態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		地域理解の必要性を重視し、積極的に授業に臨んでいる。			地域の歴史と現状を知りすることで、今後の稚内の在り方について積極的に考えている。			地域の諸問題についての確に把握し、また他者への説明ができる。 稚内の歴史、風土、文化、産業に関する幅広い知識が身についている。		
評価の算出		単元テスト 定期考査 成果物			単元テスト 定期考査 成果物			日々の取り組み		
年 間 の 学 習 計 画										
学期		月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			評価の重点			評価方法
							①	②	③	
前 期	4	7	○稚内の概要			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	5	8	○宗谷岬周辺、稚内空港周辺			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	6	8	○前期中間考査 ○稚内公園、ノシャップ岬、稚内西海岸、稚内港			◎	○	○	定期考査 日々の取り組み・単元テスト	
	7	5	○稚内のイベント、アクセス、味覚			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	8	5	○稚内の自然			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト	
	9	8	○稚内の産業、文化、歴史 ○前期期末考査			◎ ◎	○ ◎	○ ○	日々の取り組み・単元テスト 定期考査	
後 期	10	8	○地域とビジネス ○稚内観光マイスター検定			◎ ◎	○ ○	○ ○	日々の取り組み・単元テスト 検定試験	
	11	9	○イベント企画 ・パンフレット作成			○	◎	◎	日々の取り組み・成果物	
	12	7	○イベント企画 ・提供物の起案、作成			○	◎	◎	日々の取り組み・成果物	
	1	5	○イベント企画 ・イベントに向けたリハーサル			○	◎	◎	日々の取り組み・成果物	
	2									
	3									
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
・ 普段の授業を大切に、予習、復習をこまめに行う。 ・ この授業は座学一斉授業をメインに、調査・研究・発表などの実習も計画している。 ・ 本授業では、稚内観光マイスター検定試験中級取得を一目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。 ※本授業は1年次に学習した「稚内学」の知識を基に、稚内の風土・歴史・文化・産業等の学習を通して地域への理解をより一層深めることを目標としています。学習の基本は座学による授業となりますが、単に知識としてだけでなく自分たちが暮らす地域の実態を学習しているということを念頭に置いて、授業に参加するようにしてください。										

教 科		商業	科目	簿記研究	学年	3	単位数	3	選択	
使用教科書		なし								
使用副教材		なし								
科目の目標		簿記会計に関する発展的応用的な知識と技術を習得させ、会計を扱うスペシャリストになることを目指し、簿記について深く研究できる能力と態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		簿記会計に関する技術を習得し、あらゆる帳簿を作成できる能力を身につけた。			会計に関する法規や基準を正しく理解し、財務諸表などで適切に表現することができる。			簿記について深く学ぶ意欲があり、さらに研究しようとする態度を身につけた。		
評価の算出		単元テスト 定期考査 検定試験			単元テスト 定期考査 検定試験			日々の取り組み 提出物		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	7	○資産除去債務 ・ 総論、見積りの変更、その他の論点 ○純資産 ・ 総論、株式の発行、剰余金の配当、計数変動				○	○	◎	日々の取り組み・単元テスト
	5	12	・ 剰余金の処分、自己株式、分配可能額の算定、株主資本等変動計算書				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	6	12	○新株予約権と新株予約権付社債 ・ 新株予約権、新株予約権付社債 ○ストックオプション ・ 総論、権利不確定による失効、対象勤務期間 前期中間考査				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 定期考査
	7	9	○税効果会計 ・ 総論、各論 ○外貨建取引 ・ 総論、外貨建取引の会計処理、外貨建有価証券、為替予約等の会計処理				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
	8	9	○商品売買等 ○工事契約・本支店会計 ・ 総論、工事損失引当金、本支店間取引、決算、内部利益の調整				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
	9	13	前期期末考査 ○連結財務諸表総論、資本連結				◎	◎	○	定期考査 日々の取り組み・単元テスト
	10	13	○成果連結、持分法 ○連結税効果会計、包括利益 ・ 一時差異、包括利益計算書				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
	11	13	後期中間考査 日商簿記検定				◎	◎	○	定期考査 検定試験
	12	10	○在外子会社、企業結合 ○事業分離 ・ 総論				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
後 期	1	7	○キャッシュ・フロー計算書 ・ 総論、各論 ○連結キャッシュ・フロー計算書 ・ 総論、各論				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
	2		○会計上の変更及び誤謬の訂正 ・ 総論、各論 日商簿記検定試験				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト 検定試験
	3									
	合計	105								
	学 習 方 法 ・ そ の 他									
・ 簿記を深く学び、研究する科目である。 ・ 普段の授業はもちろん、それ以上に復習をしなければならない。 ・ 高専連携授業のため、休むと大きく支障が出ます。欠席には注意すること。 ・ 本授業では、日商簿記検定1級取得を目標とする。 ・ 授業で指示をする提出物は、必ず期日までに提出する。 ・ 学習用具、プリント等の忘れ物は、授業に支障が出るとともに平常評価にも関わるので十分注意する。										

教 科		商業	科目	アプリケーションソフト	学年	3	単位数	3	選択		
使用教科書		なし									
使用副教材		全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報１級									
科目の目標		企業において必要とされるＩＣＴに係る知識や応用的技能を習得することで、社会人に必要とされる実践力を高める。									
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		自らの将来を見据え、積極的に活用しようとする意識を持って授業に取り組んでいる。			職場での活用について意識し、またより良い資料作成について工夫できている。			各種ソフトウェアの活用技術が身につけられており、その応用も可能である。コンピュータ全般について理解し、指示された業務に活用することが出来る。			
評価の算出		単元テスト 実技試験 検定試験 定期考査			単元テスト 実技試験 検定試験 定期考査			日々の取り組み			
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③	
前 期	4	8	○企業における情報の実体化 ・現代社会におけるＩＣＴ技術の重要性 ・各種職業におけるＩＣＴ技術の活用状況				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト	
	5	13	○タッチタイピング練習				◎	○	○		日々の取り組み・単元テスト 日々の取り組み・単元テスト
	6	13	○ワープロソフトの活用 ・Wordを利用した応用的な文書作成 (図形の描画、画像の挿入、グラフの挿入)				◎	◎	○		
	7	10	○全商ビジネス文書実務検定				◎	◎	○	検定試験 日々の取り組み・単元テスト	
	8	10	○プレゼンテーションソフトの活用 ・PowerPointの基本操作方法 ・効果的な資料作成について				○	◎	○		
	9	7	○前期期末考査				◎	◎	○		定期考査
後 期	10	12	○表計算ソフトの活用 ・応用的な関数（VLOOKUP/HLOOKUP、データベース関数）				◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト	
	11	12	・Excelを使用したデータ分析について (ピボットテーブル、ゴールシーク、ソルバー)								
	12	12	・複合グラフ								
	1	8	○全商情報処理検定				◎	◎	○	検定試験	
	2 3										
合計		105									
学 習 方 法 ・ そ の 他											
・実習が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・定期考査はもとより、実技テストの結果なども評価対象とする。 ・コンピュータの利用にあたっては、規則や注意を遵守し大切に使用すること。											

教 科	商業	科目	ビジネス技術	学年	3	単位数	3	選択	
使用教科書	なし								
使用副教材	全国商業高等学校協会主催 令和8年度版 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級								
科目の目標	企業において必要とされるビジネスに関する技術や文書作成に係る技術を習得することで、社会人としての基礎力・活用力を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	Word・Excelを使用したビジネスに関する知識・技術について習得できている。			職場での活用を見据え、より良い資料作成について工夫できている。			自らの将来を見据え、進路意識を持って授業に取り組んでいる。		
評価の算出	単元テスト 実技試験 検定試験			単元テスト 実技試験 検定試験			日々の取り組み 提出物		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	10	○タイピングの基礎 ・タッチタイピング			◎	○	○	日々の取り組み・実技試験
	5	13	○ビジネス文書の作成 ・文書作成			◎	○	○	日々の取り組み・実技試験
	6	11	○筆記対策 ・機械操作 ・文書の種類・作成、プレゼンテーション ・言葉の知識			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト
	7	8	○ビジネス文書実務検定			◎	◎	○	検定試験
	8	8	○Excel関数			◎	◎	○	日々の取り組み・実技試験
	9	10	○Excel応用 ・複合参照、マルチシート、グラフの作成			◎	◎	○	日々の取り組み・実技試験
後 期	10	12	○データベース ハードウェア・ソフトウェア ・リレーショナル型データベース ・SQL ・ハードウェアの構成 ・ソフトウェアに関する知識			◎	○	○	日々の取り組み・単元テスト
	11	12	○通信ネットワーク 情報モラルとセキュリティ ・ネットワークの構成、活用 ・権利の保護と管理、セキュリティ管理			◎	◎	○	日々の取り組み・単元テスト
	12	12	○全商情報処理検定試験対策			◎	◎	○	日々の取り組み
	1	9	○全商情報処理検定試験対策 ○全商情報処理検定試験			◎	◎	○	日々の取り組み 検定試験
	2								
	3								
合計		105							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・ コンピュータの操作が中心となるため、技術的な修練を怠らないようにすることが重要。 ・ 章末テストや、実技試験などを評価対象とする。 ・ 全商ビジネス文書実務検定2級、全商情報処理検定2級の取得を一目標とするため、それに対する取り組みも評価対象とする。									